



RD5 03.1.10.

### 一 神様からの大事な宝物一

今回のインタビュは、平塚教会の奥川昌子先生です。戦後の大変な中を、教会長先生と共に教会の御用、三人のお子さんの育てと奮闘されてこられました。今回は、主に「子育て」のお話を聞かせて頂きました。

☆三人のお子さんを育てられて、大変でしたでしょうね。

「子供は、神様からお授け下さった、大事な『宝物』ですからねえ。大事に育てる、ということが大切だと思います。」

おかげさまで、私たちの子供はお医者さんにかかったことがない、というほど元気だったのです。病気がばかりしている子を見ると「かわいそうに、親も子も大変でしょう。」と思うのですが、うちの子達はおかげさまで、手間がかかる、ということ

がありませんでした。健康保険も使うようなことがなかったのも、毎年度末には、市役所からタオルなどを頂いていました。このごろの方が私達も年をとったせいもあって、病院にお世話になる事が多いのですよ(笑)。

結局は、毎日毎日をお願いして、子供をお育てさせて頂くのですからね。自分が育てて

## 川でスベって山でコロんで…とってきました *interview* 第3回 奥川昌子先生 (平塚教会)



いると思ってるようでも、日々神様からおかげを頂いてさせて頂いてるのですよ。

「日々健康で、先々お道の御用や世の中のお役に立つ人にならせて下さい」と、私もお願いさせて頂いてきました。」

☆それは、日々のご祈念の中でお願いされてきたのですか。

「それはもちろんそうです。また、産まれる前などは、皆さん願う事でしょうけど、『五体満足で産まれませ様に』とお願ひさせて頂いてました。」

☆平塚のお教会では、三男の美智雄先生が後継として御用されていますが、最近『教会の後継者』の問題を、よく教内で言われてたりしますよね。先生は若先生に、お道の御用に立つようにする為の何か(話など)を、意識的にしましたか？

「いえいえ(笑)…。うちは三兄弟なのですけれども、一番上は『一日中じっと座ってご祈念する、というようなことは、僕には合わない』と言って、別の仕事に就きましたし、二番目の子は『どうしても(養子に)欲しい』と言われる方がおられました、そちらに行きましたし。それで若先生が『僕がやらなきゃしょうがないね』と(笑)。こちらが何か言ったわけではなかったのですが、本人の中で、先生になることを自覚してくれていたようです。」

☆子育て中の『おかげ話』など、ありましたら教えて下さい。

嬉々として  
おめでとうございます

私へのお年玉は、  
感謝係まで!



原稿、取材と、昨年とは協力ありがとうございました。本年もまたお世話になります。  
編集スタッフ一岡

「まあ、すべておかげの中で育てさせて頂いたと思うのですよ。思い出せば、大変な時期もありましたけど、三人とも育って、ここまでさせて頂きましたから。また子供たちも、そんなに手のかからない子供でした。上の子は割と落ち着いた子でして、弟たちは兄の言うことを、よく聞いて遊んでましたので、そんなに骨の折れるようなことはありませんでした。このこと、おかげを頂いてのことだと思っています。」

☆今日はどうもありがとうございました。

昨年の八月には、当教会連合会長木本紀義師の辞意表明という思いもよらぬ事態に遭い、改めて連合会長の受け持つ重責と、連合会とは何なのか、どういう役割を持っているのか等、連合会のビジョンについて考えさせられる機会となったのは、私だけではないと思います。まだ明確な答えは出ませんが、今後も自ら問い続けられて行くものであります。

さて、昨年十月十二日には、臨時総会が開催され、新連合会長選出について協議が行われ、現体制の中から選び出されるべきであるとの意見から、話し合いにより私とその御用にあたらせて頂くことになりました。

教会連合会規約の目的に、『教会が連帯して地域における教団活動を推進するため、教会活動の互助連絡及び布教活動を行うとともに、教区活動を担う』と条文化されていますが、最も大切なところは、信者が一体となって、ご神願成就のためにお役に立たせて頂くことであり、『連帯』と『布教』という言葉に集約されると思います。そのために、神奈川、

山梨県内の信者の皆様とともに手を携えて、担い合いながら、活動を推進して参りたいと思います。

本年も、何卒よろしくお願い致します。

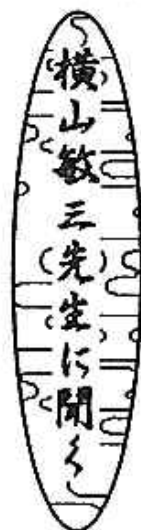
連合会裏就任挨拶  
新年を迎えて  
南 清孝

今年は神奈川県においては布教百十一年、山梨県においては布教百九年を迎えました。ついては、昨年から来年の平成十六年までの三年間を神奈川山梨布教百十年奉祝期間と押さえ、昨年からは布教祈願詞の奉唱運動を開始し、奉祝事業実施に向けて、準備委員会を組織し協議を進めてきました。

また、今年は教祖百二十年というお年柄を迎えさせて頂きました。七月には教祖百二十年記念講演集会を横浜市内で開催します。「金光大神の信心を現代に現す」内容の講演と、映画『おかげは和賀心にあり』の上映であります。奉祝事業として実行委員会を組織し、取り組んで参りたいと考えております。

奉祝事業が単なる行事として終るのではなく、活動を通して『連帯』と『布教』の意識が高まり、連合会に活性化が生まれてくるよう、取り組んで参りたいと思います。

特稿  
神奈川 山梨 教百十年



「実は父に『金光教の教師にだけはなるな』と言われてたのですよ」と笑う、丸子教会の横山敏三先生。教会設立前から、自宅にお広前の働きが生まれ、教師になられてからは、早くから新しいタイプの教会活動を生み出してこられました。また、修徳殿輔導として、全教の信奉者を導いてこられた先生のご信心の移り変わりをお聞きしました。

私は子供の頃から病弱だったので、昭和四年にお手引きされて、両親が横浜教会で入信しました。その後、六年には鶴見に転籍し、父は総代の御用を頂くほど熱心に参拝していました。しかし、私が自分から進んで信心しようと思うようになったのは、昭和十四年のことでした。健康のおかげで頂きたいという思いと鶴見の先生は何でもピタッと当たるのが魅力で、「一年病院に入ったつもりで」と教会に置いてもらうことになったんです。まあ、その間に金光教

に親しみもわき、この時が私の入信だと思っています。

昭和十九年に入隊し、朝鮮半島に渡り桂林まで行きました。二十二年に膿胸という胸膜に膿が溜まる病気になる、入院しなければならなくなりました。そして、四十度の回帰熱が続いて、自分でももうこれが最後かなと思っただけです。その時は、親と神様に心からお詫びを申し上げました。「これまででたいしたことせず、すみませんでした」と。その瞬間、耳のところでピューッと音が鳴り、熱がどんどん下がっていったんです。まわりは高熱で次々死んでいく中、自分の至らなさをお詫びした瞬間、神様と繋がったんですね。この出来事が今日の私の礎となったのです。信心は、お詫びをしていくことが大切です。お詫びは私の信心の中心でもあります。

二十一年に復員することができ、兄がいた平間に帰ってきて、鉄工所の組合に入社して働いていたんですが、二十三年頃から悩みが生まれてきたんです。「十年の信心が続いたら、我ながら喜んでわが心をまつれ」という教祖様のみ教えがありますが、信心を始めようと思っただけで、十年目を翌年に控えた頃だったのです。わが心をどうまつたらよいのか、どうしたらいいのか

と、ずーっと悩まされたのです。ある先生が「そういう時は日参しなさい」とアドバイスしてくださり、鶴見教会に毎日自転車朝参りを始めたんです。そうこうしているうちに、町内の生協の理事になった頃、職員の子供さんがお医者も見放すほど具合が悪くなったとのことで、親子とも家につれてきて、御神米を炊き子供に頂かせました。飲んでいるうちに良くなったので、お母さんはびっくりしたんですね。それから、人が噂を聞いて次々来るようになりました。朝五時に来る人もいたり、夜も遅くまででした。会社に遅刻することもしばしばで、どうとう辞めることにしたんです。そして、先生の命で学院に半年行くことになりました。

学院に入ってみると、何でもピタリと当たるとか、病気が治るといふのは、金光教の信心とは違ふということを感じました。学院を出てから教導が変わり、信者さんが離れていきました。塩を舐めて生活するということもあつたんです。

そういう私に転機が訪れたのが二十九年。ご本部の先生が本部広前建築についての説明のために来られたんです。その時の話の内容が難しくて理解できなかったんです。この時、勉強しなきゃダメと思いました。

それから一生懸命本を読んだり勉強しましたね。三十五年から、先代の木本先生と奥川先生と三人で勉強会を始め、十年続きましたよ。この会からはいろいろなことを得ることができました。四十五年に議会議員になりました。この御用を通して「信心と教務は違う」ということを理解しました。例えば、ご祭典は一つの教務です。そこでわれわれが何を頂くかが信心なんです。これがごちや混ぜになるとうまくいかなくなる。また、おかげ話をしちやいかん、教祖様のご信心を話さなくちやいかんと思うようにもなりました。とにかく燃え始めた頃でした。各種活動もこの頃から始め、盛んになっていきました。

取次者として大切に思うことは、お結界がしっかりと拝めるかということです。生神金光大神様のお働きの中で、お取次の御用を頂くのであって、自分が取次するんじゃない。お結界に入る前に、今日のことを願って、そして無になつて入らせて頂くのです。

教祖様は「これですんだとは思いません」という実意丁寧神信心で、四十二歳の時九死に一生を得られました。ですから、教師は偉くなつてはダメだと思つています。常に至らない自分であるという自覚に立たねばなりません。

☆連合会の人事が  
チョツと変わりました。

会長 南 清孝  
副会長 須藤 明徳  
吉田 章一郎  
(信徒部長兼任)  
布教部長 横山 光雄  
教師部長 高橋 紀代士  
総務部長 村田 光治  
青少年室長 今村 誠  
(敬称略)

— 連合会より やまがみ通信 — お知らせ —

☆神奈川 山梨  
教会連合会総会  
\*日時— 2月8日 (土)  
14:00~16:00  
\*場所— 神奈川教会  
\*内容— 平成14年度活動  
報告、決算及び、平成  
15年度事業計画、予算  
案の審議。  
☆その他、「女性のつど  
い」韓国鍋料理を予定。

☆第10回首都圏女性の集い

講演「金光大神の微笑」  
—だからあなたも金光いて—  
(岩崎道典 国際センター所長)  
その他プログラム多数  
\*日時— 2月11日 (祝・火)  
10:30~15:30  
\*場所— 金光教館イーストホール  
\*参加費— 1500円  
\*申し込みは1月31日までに、教  
会ごと下記までお願いします。  
03-3781-1595 太田明

〈 恋・娘・ね 〉

変人を作ろう

南甲府教会 福田光一

新春を迎え、今年も良い年で...と願う。昨年は日本にとって、ある面で良い年だったと思う。二人のノーベル賞受賞者が出たのもその一つだ。

日本には天才が少ない。それは天才を作る人が少ないからだ。天才や一流の人を育てることを喜びとする人が少ない。言い換えれば、「凡人の自覚」が悪いのかもしれない。

受賞した田中氏を見ると、天才ではあるが、同時に誰が見ても変人だ。

奇人変人を尊重し、好きなことしかない人も認め、滅点主義から脱却することが、変人⇨天才を作る基本だと思ふ。

信心においても「変人になれ。変人にならぬと信心はできぬ。変人とはすぐ(直)いことぞ」なのである。

金光教 神奈川 山梨教会連合会

発行 者 南 清 孝  
編集責任者 横山 光雄  
川崎市多摩区生田五―二四―九  
金光教登戸教会内